

野菜

実況…(28年10月20日現在)

1 施設野菜

果菜類

(1) トマト

若狭地区の夏越栽培は、23～24段果房を収穫中である。

抑制栽培は、福井地区で2～5段果房、坂井地区では5～6果房を収穫中である。

若狭地区の越冬栽培では、4～5段果房を収穫中である

うどんこ病が中発、葉かび病、すすかび病が少発、灰色かび病が微～少発、萎凋病が微発、オオタバコガが少～中発、コナジラミ類、トマトサビダニが少発である。

(2) ミディトマト

奥越、南越地区の夏秋栽培は、ほぼ10月末で収穫終了見込みである。

抑制栽培は、8、9月の高温により出荷が前進化し、ほぼ収穫終了している。

若狭地区の促成長期どり栽培では、10～12段果房が開花中で4～7段果房を収穫中である。9月後半から草勢が弱かったものの、現在草勢は回復中である。

コナジラミ類、ハモグリバエ類が微発である。

(3) アールスメロン

収穫は、坂井北部丘陵地で10月14日で終了、三里浜砂丘地では10月末で終了見込みとなっている。玉の大きさは、前半は4L～3L中心であったが、後半は2L～3L中心とやや小玉傾向であった。

(4) キュウリ

福井地区は10月10日で収穫終了している。南越、二州地区の抑制栽培では、収穫中である。

うどんこ病、褐斑病が微発、ハモグリバエ類が微発である。

(5) イチゴ（高設）

福井、坂井、南越、丹生、若狭地区は、定植後の生育が順調である。定植の早いところでは、第1果房が出蕾始めから開花、果実肥大中となっており、一部で10月下旬から出荷が始まっている。

うどんこ病が局微発、ハダニ類、アブラムシ類が微発である。

葉根菜類

(1) 軟弱野菜

福井地区のハウレンソウは、9月中旬播種を約35～40日前後で収穫となっている。ハスモンヨトウの捕獲数は今年の1.5～2倍と多いものの、被害は少ない。

(2) 青ネギ

若狭地区の周年水耕栽培は、8月下旬播種分を収穫中である。播種から収穫までの日数は、55日程度である。

(3) 白ネギ

坂井北部丘陵地は、6月下旬定植で、葉鞘径が20～25mmとなっている。

萎凋病が多発、シロイチモジヨトウ、ヨトウムシ類が中発である。

2 露地野菜

果菜類

(1) ナス

奥越地区は、気温の低下とともに収穫量は減少しており収穫終盤となっている。11月上旬頃まで収穫予定である。

褐色円星病、うどんこ病が少～中発、タバコガが少発である。

(2) ピーマン

丹生地区は、第18～23果房を収穫中で、11月中旬まで収穫予定である。

アブラムシ類、斑点細菌病が微発である。

(3) エダマメ

二州地区は、10月10日に収穫終了した。

葉菜類

(1) キャベツ

坂井北部丘陵地は、7月中旬～8月上旬定植が収穫中である。

福井、坂井、奥越、丹南、二州地区では、7月下旬定植が早いもので9月28日から収穫が始まり、10月中旬からは県内一円で行われている。収穫開始は、昨年に比べ1週間程度遅くなっているが、平年並みである。

軟腐病が少～多発、菌核病、黒腐病が少発、コナガが中発、アオムシ少～局中発、ヨトウムシ類、タバコガ、ナメクジが少発である。

(2) ブロッコリー

南越地区は、7月下旬定植が10月3日から出荷開始となっており、順次出荷中である。8月上旬定植を中心に軟腐病が発生したものの、現在品質は安定しており、収穫最盛期が10月下旬～11月上旬の見込みである。福井、若狭地区では8月上～中旬定植が収穫中となっている。9月上旬定植が、本葉15枚となっている。

軟腐病が局中発、コナガ、ヨトウムシ類が中発である。

(3) ネギ

4月定植は、福井、奥越、南越、二州、若狭地区で収穫終了もしくは終盤となっている。一部で、棒ネギの発生も見られた。

5月上旬定植では、福井、坂井、奥越、南越、二州、若狭地区で、葉鞘径が20～27mmとなっており、早いもので収穫が始まっている。

5月下旬定植では、福井、丹生、若狭地区で、葉鞘径が18～23mmとなっている。

9月の寡日照により、生育は緩慢に推移している。

べと病が一部多発、軟腐病が少～多発、黒斑病、白絹病、葉枯病が少～中発、萎凋病が少発、

褐色腐敗病が一部少発、さび病が微～少発、ハモグリバエ類が少～多発、シロイチモジヨトウが少～中発、アザミウマ類が少発、ヨトウムシ類が微～局多発である。

越冬どりは、福井、奥越地区では、葉鞘径が13～18mmになっており、ほぼ昨年並みの生育状況である。

萎凋病、黒斑病、さび病、軟腐病が少発、ハモグリバエ類が少～中発、アザミウマ類が少発である。

(4) 勝山水菜

奥越地区は、9月16日頃から播種開始され、早いもので葉数5～6枚となっており間引き・補植作業中となっている。

白斑病が微発、カブラハバチ、アオムシが少発である。

根菜類

(1) ダイコン

三里浜砂丘地は、10月7日から出荷が始まり、順次収穫中である。坂井北部丘陵地では、昨年より若干遅めの10月中旬から出荷開始見込みである。

コナガが微少～中発、キスジノミハムシ、カブラハバチ、ハイマダラノメイガが少発である。

(2) サトイモ

奥越地区は、10月13日（昨年15日）から出荷開始となっている。小玉傾向だった昨年より大玉傾向となっており、平年並みの収穫量を見込んでいる。

(3) カンショ

坂井北部丘陵地は、順次収穫されており11月上旬まで続く予定である。イモの肥大は良好である。丹生地区では、10月下旬で収穫終了した。

(4) ニンジン

坂井北部丘陵地は、10月20日から収穫が始まっている。三里浜砂丘地では、早いもので根重が100g程度となっており、収穫開始は11月初旬となる見込みである。

軟腐病、黒葉枯病、キアゲハ、ヨトウムシ類が少発である。

(5) タマネギ

永平寺町は、10月末から定植開始予定である。坂井地区では、10月24日から定植開始予定で、苗の草丈が19cm、葉鞘径が2～3mmとなっている。

(6) ニンニク

永平寺町は、10月3日から定植が始まっている。9月中旬からの長雨により、圃場準備が遅れており現在も定植作業が行われている。

(7) ラッキョウ

三里浜砂丘地は、3年子栽培の定植作業が10月下旬で終了した。芽立ちや年内生育は良好である。開花はやや早めとなっている。

ハモグリバエ類が微発である。

対 策

11月に入ると気温の低下が日々大きくなっていく。月平均気温を見ても、上旬では最高気温18℃、最低気温9℃が、下旬では最高気温13℃、最低気温5℃とハウス内では暖房が必要な温度になっていくため、暖房器具等の点検を早めに行っておく。また、時として寒気による霜や降霰による被害が発生することもあり、日々の気象の変化に留意する。適切な肥培管理や収穫作業を実施することで、生育遅延や収穫遅れによる品質低下の発生防止に努める。また、越冬野菜については、圃場の排水対策を徹底するとともに、適期定植を行って越冬前の生育確保に努める。

1 施設野菜

果菜類

(1) トマト・ミディトマト

温度低下による果実着色の遅れや裂果を防ぐため、内張りカーテを設置して保温を行う。暖房機設置ハウスでは、最低気温10℃以上の確保を目安に暖房を開始する。また、ハウス内湿度は60～80%で管理する。特に夜～朝にかけての多湿は、裂果を誘発するので注意する。

(2) 軟弱野菜

ハウレンソウ、コマツナ等を11月に播種する場合は、低温期で生育期間が長くなることから内張りカーテンを設置してハウスの保温を行う。また、べと病等の発生予防のため抵抗性品種を用いるとともに、厚まきやかん水を控えて過湿にならないようにする。

コカブは低温期になると葉が伸びにくく、内張りカーテンを設置してハウスの保温に努める。

(3) イチゴ

ハウス内温度が12℃を下回る頃から、カーテン等による保温と暖房による加温を開始し、夜温の確保に努める。また、老化葉はうどんこ病やハダニ等の発生源となるため適宜摘葉する。なお、予防散布により病害虫の発生防止に努める。

(4) 収穫後の圃場管理

ア 収穫終了後、病害虫を次年度に持ち越さないよう、罹病株等の残渣を圃場外へ持ち出すとともに、圃場清掃に努める。また、抜根時に根部の病虫害等の有無を確認し、必要に応じて対策を講じる。

イ 収穫終了後、土壌診断により残肥量や肥料バランスを確認し、次作の施肥管理の参考とする。また、堆肥等の有機物を施用して土作りを行う。

ウ 使用済みの資材は消毒して収納し、次年度の病害発生の原因にならないようにする。また、作付けの終了したハウスは速やかにビニールを外す。

2 露地野菜

果菜類・豆類

(1) 一寸ソラマメ

無マルチ栽培では11月下旬～12月上旬に追肥を行う。また、不織布等をトンネル被覆して株を保護する。なお、排水溝を整備して湿害を防ぐ。

葉菜類

(2) キャベツ

秋まきキャベツは、11月上～中旬に温暖な日を選んで定植する。なお、定植が遅れると地温が低下して活着が悪くなり、越冬率が低下するので注意する。越冬前に必要葉数を確保する。

(3) 白ネギ

さび病の発生が予想されるため、収穫予定日をふまえて薬剤を選択し、予防的防除を行う。

根菜類

(1) タマネギ

11月上旬までに植付けるが、植付け当日にできるだけ根を切らないように採苗し、根を乾かさないうようにして苗の大きさを揃えて植付ける。

(2) ラッキョウ

白色疫病の発生期となり、特に植付時期の遅いものや、過湿になりやすい圃場では発病しやすいため、防除薬剤による予防散布を行う。

施設園芸省エネルギー対策

農林水産省の「施設園芸省エネルギー生産管理マニュアル」を活用して、省エネ生産に努める。また、チェックシートを実践する。

～農林水産省HPより抜粋～

1 暖房機の点検・清掃

(1) 暖房装置のメンテナンス

施設園芸において必要不可欠な暖房装置ですが、当然機械であるため経年劣化による暖房効率の低下や故障などのトラブルの発生は止むを得ないものであります。それらを最小限に抑え長期間使用するためには、定期的な点検や清掃が欠かせません。

このため、最低でも1年に1回は暖房装置の点検・清掃を実施し、暖房装置の加温能力を最大限に引き出すとともに、省エネルギー対策に努めましょう。

2 適切な温度管理の準備

(1) 施設園芸作物の適温管理

作物には、品目毎、品種毎、生育ステージ毎に生育適温と言われる最も良好な生育を示す温度域があります。このため、作物の生育適温を無視した過度の省エネルギー対策により、作物の生育不良や生産物の品質低下、収量減を招いては意味がありませんので、まずはじめに栽培している作物の生育適温の確認を行いましょう。

① 野菜の種類別生育適温

表1 作物別生育適温ならびに限界温度(℃) (高橋)

作物		昼気温		夜気温		地温		
		最高限界	適温	適温	最低限界	最高限界	適温	最低限界
ナス科	トマト	35	25~20	13~8	5	25	18~15	13
	ナス	35	28~23	18~13	10	25	20~18	13
	ピーマン	35	30~25	20~15	12	25	20~18	13
ウリ科	キュウリ	35	28~23	15~10	8	25	20~18	13
	温室メロン	35	30~25	23~18	15	25	20~18	13
	スイカ	35	28~23	18~13	10	25	20~18	13
	カボチャ	35	25~20	15~10	8	25	18~15	13
イチゴ		30	23~18	10~5	3	25	18~15	13

(2) 天敵資材や花粉媒介昆虫の活動適温

近年の施設園芸において省力化や品質向上に大きな役割を果たしている天敵資材や花粉媒介昆虫にも活動適温があります。天敵資材・花粉媒介昆虫の種類ごとに活動適温が異なりますので、使用する際は必ず事前に活動適温を確認しましょう。

(3) 暖房装置の温度センサーの点検

暖房装置は、設定された暖房温度になるよう自動運転しますが、温度センサーが感知する温度が暖房の開始・停止を決定することとなりますので温度センサーが正常に作動しているか必ず確認しましょう。また、温度センサーの設置位置は、作物の生育にとって重要である成長点付近などの適切な高さに設置しましょう。

3 温室の保温性の確保

(1) 採光条件の点検

採光性を向上させると温室内の気温・地温上昇をもたらし、省エネルギー化につながります。

- ① 温室内の採光性を確保するため、外部被覆資材に汚れ等が付着していないか確認しましょう。
- ② 温室内外に採光を妨げるような資材や機材がないか確認しましょう。

(2) 温室の外張被覆の点検

- ① 温室の外張被覆の隙間や破れの点検
- ② 天窓や側窓、入口の破損や隙間の点検
- ③ 被覆資材留具の緩みの点検
- ④ 換気扇のシャッターの隙間への冬期夜間の目張り

(3) 温室の内張りカーテンの点検

- ① 温室内に内張りカーテンを展張することで温室内の保温効果は一層高まります。
- ② 内張りカーテンの保温効果を最大限に発揮させるには、カーテンの破れやつなぎ目、カーテンの裾部に隙間ができないよう十分に注意する必要があります。
- ③ パイプハウスの外張被覆に2枚のフィルムを重ね、その間にブロワで空気を吹き込んで断熱層(空気膜)とした空気膜ハウスについても、内張りカーテンと同等以上の省エネルギー効果が見込めます。

(4) 温室内の温度ムラの点検

① 送風ダクトの適切な設置

温風ダクトを適切に設置して温室内の温度ムラを極力なくしましょう。

② 循環扇（攪拌扇）の設置

温室内の温度や湿度の分布ムラをなくし効率的な暖房が可能となります。また、植物表面の乾燥を促し結露が発生しにくくなるため、病害の発生を抑制する効果も期待できます。

4 施設園芸省エネルギー生産管理チェック項目

作業区分	加温シーズン終了後又は加温シーズン前
暖房機の点検	<input type="checkbox"/> 暖房機の熱交換面（缶体）の清掃をしましたか。 <input type="checkbox"/> バーナーノズル周辺（ディフューザー周辺）の清掃をしましたか。 <input type="checkbox"/> 定期的なバーナーノズルの交換をしましたか。 <input type="checkbox"/> エアーシャッターで空気量の調整をしましたか。

作業区分	加温シーズン入りしてから
適温管理のための点検	<input type="checkbox"/> 暖房装置の設定温度と実際の温度にずれがないか確認しましたか。 <input type="checkbox"/> 作物の適温を確認して温度設定しましたか。 <input type="checkbox"/> 暖房装置の温度センサーは、適正な位置に設置されていますか。 <input type="checkbox"/> ハウス内に温度ムラはありませんか。 <input type="checkbox"/> 変温管理を行っていますか。 <input type="checkbox"/> 送風ダクトが適切な本数や配置になっていますか。 <input type="checkbox"/> 天敵資材や花粉媒介昆虫の活動適温を確認しましたか。

作業区分	加温シーズン中
保温管理のための点検	<input type="checkbox"/> 被覆資材は汚れていませんか。 <input type="checkbox"/> 外張被覆資材及び天窓、側窓、施設の入口に破れや隙間はありませんか。 <input type="checkbox"/> 被覆資材留具に緩みはないですか。 <input type="checkbox"/> 温室内外に採光を妨げるようなものを置いていませんか。 <input type="checkbox"/> 内張カーテンに破れはありませんか。 <input type="checkbox"/> 内張カーテンのつなぎ目、軒部カーテンのつなぎ目に隙間はありませんか。 <input type="checkbox"/> 内張カーテンのすそ部に隙間はありませんか。（特に夜間、暖房装置の稼働時） <input type="checkbox"/> 内張カーテンの開閉は、日長（日の出・日の入り時刻）に応じて調節していますか。 <input type="checkbox"/> 内張カーテンを設置していますか。 <input type="checkbox"/> 内張カーテンは多層化していますか。 <input type="checkbox"/> 換気扇のシャッター隙間に目張をしていますか。 <input type="checkbox"/> マルチを利用していますか。